

学びの部屋 ～2年生～ 「生きものはっけん」「わたしの町はっけん」

生活科「生きものはっけん」の学習では、生き物に快適なすみかを作るなどして親しみをもつとともに、大切に世話を続けること、生き物が命をもっていること等に気付かせることをめあてとしています。そこで5月からザリガニを各班に1・2匹ずつ飼っています。まず、ザリガニが住みやすいために砂利をどのように敷くのか、何が必要かを考え準備しました。観察ケースに水を入れて1・2匹ずつザリガニを入れると、子供たちはじっと見つめていました。その後、触ったり持ったりしてザリガニの様子を観察しました。今は担当曜日を決めて毎日水を替えています。子供達が大切にザリガニを育てている姿を嬉しく思っています。

(齋藤文子)



6月から生活科の学習では、自分たちが住む町を探検したり、町のすてきを見付けたりするために、店舗に協力していただいてグループごとに見学したりします。

ただ町を探検するのではなく、自分の住む町のことを知っているようで実はよく知らないことがあったと気付きながら、自分の町についてさらに調べようという気持ちで臨みます。

身近にあるお店についても、見学を通して不思議を見付けたり、インタビューを通して解決したりします。また、グループごとに知りたいことを出し合い、再び見学して解決できるようにします。充実した学習になることと思います。

(土田 順子)



第73回全国社会科教育研究協議会

6月22日(土)、研究団体である社会科教育連盟(代表総務 浅野正道(小金井市立小金井第一小学校長))の依頼を受け、会場校として授業公開を行うことといたしました。

本研究団体は、戦後間もない昭和22年、文部省(現在文部科学省)より依頼を受けて発足したと伺っています。当時の花形とも言われた新しい教科・社会科をどのように実践していくかを広めていくことがその責務でもあったとされます。以来、実践を中心とした研究のあり様は変わらず、今も大きな成果を上げています。

昨年秋に浅野先生より会場校としての御依頼をいただきました。お受けするか否か随分と迷いましたが、決め手となったのは、子供たちへの充実した学習活動ができることと、本校教職員の授業力の向上が図れることでした。

すでに、授業を行うための計画案を立案すべく何回かの研究会を開催しております。教材を開発し、また様々な学習活動を設定するように計画を立てています。よりよい社会科学習の条件の一つに「地域にある施設や事柄を教材にする」がありますが、低学年で扱われる通学路や公園はもちろんのこと、芝沖クルーズを組み入れた3年生の「わたしたちの港区の様子」、地域の飲食店の方々をゲストティーチャーとしてお招きしてフード・ロスについて直接お話を伺う4年生の「ごみの処理と利用」、以前より地域にあるお米屋さんから情報を頂戴することからスタートする5年生の「米づくりのさかんな地域」、そして芝増上寺でも盛んに行われていた能を能楽師の方から直接お教えいただく6年生の「今に伝わる室町文化」と、地域を生かした学習が展開できることを有難く思っています。多くの方々に御協力を賜りますことに、この場をお借りして感謝申し上げます。

保護者並びに御家族の方々には、残念ながら御参観はいただけませんが、改めて御報告ができればと思っております。当日は、通常の土曜日授業同様、3校時まで授業を行い、下校時刻は11時15分の予定です。

(副校長 坪井由賀里)

